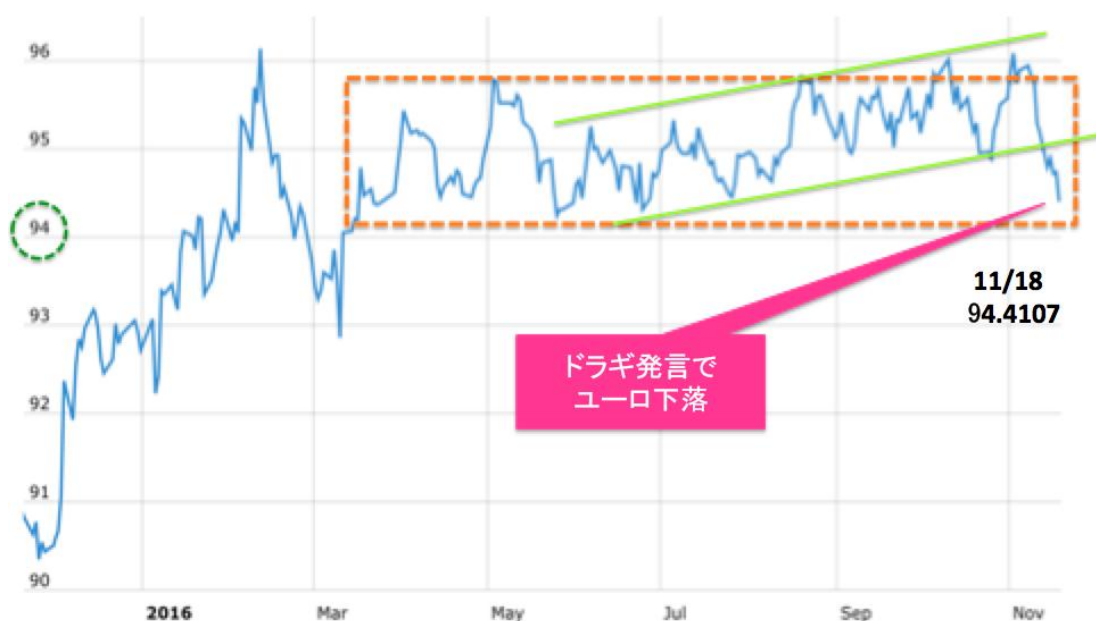


●ユーロ実効レート急落

この日のドラギ総裁の発言に大きく反応したのが、他でもないユーロ実効レートである。これがそのチャートであるが、夏からずっと黄緑色の上昇チャネルに乗っていたが、11月に入ると一転して下落に転じた。そして先週のドラギ発言を受け、今年3月から続いたレンジ(オレンジ点線の枠内)下限ギリギリまできそうな勢いだ。ひとまず、レンジの下限と94ポイントで下げ止まるのか、目が離せない。



チャート：欧州中銀ホームページ
<http://www.ecb.int/stats/exchange/effective/html/index.en.html>

最近の為替相場は、トランプ米大統領候補の当選を受け、景気浮揚効果を取引した形で米ドルが上昇している。その結果、ユーロや英ポンドは対米ドルで苦戦を強いられてきた。しかし、先週金曜日の動きは、米ドルの上昇だけでなくユーロの下落そのものも加わり、「ユーロ/米ドル」は10日連続の陰線で引けた。

●トランプ効果

私があらためて書くまでもなく、トランプ候補の当選が決まってからのマーケットは、同候補の経済政策「Trumponomics:トランポノミクス」の景気浮揚効果を先取りした形で米ドル高が進んでいる。この「トランポノミクス」は、3本の柱(アベノミクスを引用するのであれば、3本の矢)で成り立っている。それは、以下の通りである。

① 減税

所得税減税・法人税減税・資金還流促進特別税制など。

② インフラ整備投資の推進

③ 規制緩和

これら3本の柱(矢)をテコにして、米国の景気を刺激していくため、**「景気刺激策 → 景気浮揚 → インフレ懸念台頭 → 長期金利上昇 → 米ドル高」**というシナリオに乗っかり、米ドル高が継続してきた。

しかし、この経済政策には、盲点がある。それは景気刺激策に使われる財源を明確にしていないことである。

その場合、唯一考えられる財源は「借金(国債の増発)」となる。そうすると、**「米国の国債増発 → 国債量が増える → 投資魅力が下がる → 国債価格下落 → 長期金利上昇の可能性 → 米ドル高」**となるが、最初に挙げた例が「良い米ドル高」とすれば、2番目は「悪い米ドル高」といってもよいだろう。**悪い米ドル高は度がすぎると、アメリカの格下げに繋がるだけに、油断大敵である。**

●「ユーロ/米ドル」ここからのマーケット

さて、今週は11月23日(水)が日本市場休場、そして翌日はアメリカが感謝祭で祝日。そして11月25日(金)はアメリカのクリスマス商戦の「やる気」を占う上で欠かせないブラック・フライデー¹と続く。私としては、11月24日(木)の感謝祭に向けて、米ドル高の調整が入る可能性を考えている。



ここでは「ユーロ/米ドル」週足のチャートを載せたが、日足を見ると先週金曜日まで、10日間連続で陰線を出している。予想通りに米ドル高の調整が入るのであれば、黄緑の線を入れた1.0800ドルくらいまで戻してもおかしくはない。しかし、その調整が終われば、来年の「欧州選挙年」に向けた不透明感を反映し、ジリジリ下げると予想している。ターゲットとしては、フィボナッチ・ターゲットが通る1.03989ドル(138%)、そして1.02316ドル(161.8%)あたりを考えている。

¹感謝祭(11月第4木曜日)の翌日の金曜日のこと。伝統的に1年で買い物が最も行われるクリスマス商戦(ホリデーシーズン)の開始の日であり、小売店の売り上げが黒字になることから、こう呼ばれる。

【執筆者：松崎美子氏（ロンドン在住/元為替ディーラー）プロフィール】

東京でスイス系銀行 Dealing Room で見習いトレーダーとしてスタート。18 カ月後に渡英決定。1989 年よりロンドン・シティにあるバークレイズ銀行本店 Dealing Room に就職。1991 年に出産。1997 年シティにある米系投資銀行に転職。

その後、憧れの専業主婦をしたが時間をもてあまし気味。英系銀行の元同僚と飲みに行き、証拠金取引の話しを聞き、早速証拠金取引開始。

【本レポートの趣旨】

本レポートは松崎美子氏より発行されているレポートであり、情報提供のみを目的としております。

本レポート中のコメントは独自の見解に基づいたものであり、松崎美子氏、およびワイジェイFX株式会社共にレポート中の情報・意見等の公正性、正確性、妥当性、完全性等を明示的にも、黙示的にも一切保証するものではありません。

また、本レポート内のコンテンツ、データに関する著作権はワイジェイFX株式会社に帰属しております。

コンテンツ、データ等は私的利用の範囲内で使用し、無断転載、無断コピー等はおやめください。

さらに、かかる情報・意見等に依拠したことにより生じる一切の損害について、松崎美子氏、およびワイジェイFX株式会社は一切責任を負いません。

最終的な投資判断は、他の資料等も参考にしてご自身の判断でなさるようお願いいたします。